

# 学校だより



令和2年 1月 7日  
横浜市立二谷小学校  
校長 石川 秀子

## 柔軟性と粘り強さ

学校長 石川 秀子

2020年、令和2年が明けました。12月はインフルエンザが流行して学級閉鎖も行いました。まだまだ寒い日が続くために体調が心配ですが、子どもたちの元気な姿が何よりうれしい年明けです。皆様それぞれに新しい年を迎えられたことと思います。今年も子どもたちの豊かな成長を願い、充実した日々となるように教職員一同取り組んでまいります。

さて今年の子年、干支の最初になります。調べてみると『干支は本来「十干十二支（じっかんじゅうにし）」の略で「十干は甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の10の要素、十二支は子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の12の要素」を意味し、あわせて干支と呼びます。中国やアジアなどの地域において、主に日、月、年や時間、また角度、物事の順序などを示すのに考え出され、用いられたもの』だそうです。（出典：年賀状博物館） 十二支に十二の動物をあてはめた理由には諸説あり、またこの順番にまつわる民話も様々残されているそうです。干支にまつわる書籍も数多くあるので、興味が湧いてきたら家族で調べてみるのも楽しいかと思えます。

今年ノーベル化学賞を受賞された吉野彰さんは、子どもの頃に読んだ英国の化学者ファラデー（1791-1867）の本『ロウソクの科学』（岩波文庫など）が化学に興味を持つきっかけとなったそうです。様々なことに興味関心を持つこと、そして追及し続けることの面白さと大切さが伝わってきます。また、吉野さんはご自身の経験から「失敗なくして成功なし」とも私たちに伝えてくださっています。今年オリンピック・パラリンピックイヤーですが、そこでのオリンピック・パラリンピアン活躍も、勝利の一瞬だけではなく、それまでの年月と思いの積み重ねの大切さを伝えてくれることでしょう。

世の中のスピードが上がり、電源さえ入れれば情報がたやすく手に入るようになりました。迷ったり悩んだりする時間は短く、判断ではなく反応を求めてしまいがちな日常を省みたとき、一つのことにじっくりこつこつと続けて取り組む大切さを改めて感じられます。出会う出来事に対して「面白い」と思う柔軟性と、繰り返し追究する粘り強さを育てることを目指し、毎日の学校生活が過ごせるようにしていきたいです。

本年もよろしくお祈りいたします。